実践発表　【小学校（低学年）・表現】

# 対象を造形的な視点で捉え、自己の表現を探究する子供の育成

## ―子供の思いをもとにした題材構成と考える活動の充実―

岩手県盛岡市立緑が丘小学校　大宅　茜

### １　提案趣旨

本研究では、子供が自分の思いをもとに形や色を捉えることのできる授業を通して、『対象を造形的な視点で捉え、自己の表現を探究する子供』を育成していきたいと考えた。そのために、【探究的に深い学びに向かう題材構成】【単位時間の考える活動の充実】を手立てとして講じた。

### ２　実践の概要　１年「さわってまぜて　きもちいい！」

（１）【探究的に深い学びに向かう題材構成】

導入場面で、液体粘土と絵の具を混ぜ合わせて「とろとろ絵の具」を遊びながらつくる活動を位置付けた。子供は、液体粘土と絵の具が混ざる時の色の感じや、とろとろ絵の具を手や指で触った時の感触などを味わったり色の特徴に気付いたりした。

第１時の活動の中で、「たくさん試してみたい。」「最後は自分だけの絵にしたい。」という発言があった。その見取りをもとに第２・３時では、子供が表したいことに応じて、材料を選択することができる環境を構成した。画用紙を多めに準備し、色も５色から選べるようにした。また、子供が絵の具の色を選んだり、混ぜたりできるように、絵の具の色ごとにカップを分け、混色用にお皿を用意した。子供は、やってみたいことに合わせて絵の具や画用紙を選び、形や色を試したりしていた。

（２）【単位時間の考える活動の充実】

「どうして指でパッとやったの？」などと問うことで、イメージと造形要素（形、色、触った感じ）を関連付けて考えることを促した。子供は、「ライオンの強い感じが出るかなと思ったから。」などと、対象を造形的な視点で捉え、言葉で表現していた。言葉にはできなくとも、自分が表したいことを表現しようと、紙の色を変えたり、指の使い方を変えたりするなどして試行錯誤する姿が見られた。また、形や色などの造形的な視点をもとに、「似ているところ」「違うところ」「そこから感じたこと」など、比較したり関連付けたりする視点を提示した。

また、子供が見いだした造形的な視点を板書に整理、可視化し、「どの技が使えそう？」などと問うた。そして、気付きと表現のつながりを考える活動を位置付けて、対話的鑑賞を促した。子供は、自分の感じ方と友達の感じ方を比べてその違いに気付いたり、「僕も○○さんみたいに手の平を使ってみたよ。」と発言したりするなど、友達の表現のよさを自分の表現に生かそうとしている様子が見られた。

### ３　成果と課題

（１）【探究的に深い学びに向かう題材構成】

一人一人が対象に触れる場面を設定したり、見取りをもとに学習環境を工夫したりしたことは、子供が自分の「やってみたい」という思いをもとに、色や形を選ぶ中で自己の表現を探究する姿に繋がった。

一方で、単元の終末では、もう１枚描く、絵から発想した物語を絵や文にするなど、それぞれの子供の発想に活動を委ねることが可能であった。これにより、子供の思い願いを生かした探究的な題材構成につながり、さらに自己の表現を探究する姿が見られると考える。

（２）【単位時間の考える活動の充実】

造形的な視点をもとに問うことで対話的鑑賞を促したことは、友達との関わりを通して、自分の考えや活動を再構成し、より豊かに形や色を探究する姿に繋がった。また、子供が見いだした造形的な視点を板書に整理、可視化したことは、子供が自分の表現を工夫し、よりよくする姿につながったと考える。その一方で、技を使うことが目的となっていたり、活用が見られなかったりした。発達段階に応じて、子供が自分の思いやしたいことに応じて活用ができるよう、板書や技法の活用の促し方は検討の余地がある。





